

事務事業評価表 平成22年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
 施策 子育て環境の充実
 基本事業 地域子育て支援の充実

事業名 **こんにちは赤ちゃん事業**

[0858]

部名	健康福祉部	事業開始年度	平成20年度	実施計画事業認定	非対象
課名	子育て支援室子ども家庭課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>4か月未満の乳幼児をもつ保護者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>生後4か月を経過しない乳児のいる全家庭に対して、子育てに関する情報を提供し、必要な支援を調整する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>主任児童委員を中心に全戸訪問を行う。市内企業等より子育て支援の協賛品等の提供を受け、訪問時に配布する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	4か月未満の乳幼児をもつ保護者数	人		601	706	770
対象指標2						
活動指標1	家庭訪問件数	件		591	694	770
活動指標2						
成果指標1	家庭訪問達成率	%		98	98	100
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	675	1,383	1,562
正職員人件費 (B)		千円	0	836	830	833
総事業費 (A) + (B)		千円	0	1,511	2,213	2,395

費用内訳	
21年度	需用費 160千円、委託料 1,223千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	家庭訪問等により乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ最初の機会を提供するために、これまで保健センターの新生児訪問を実施してきたが、子育て環境のより一層の充実を図るために本事業を開始することとした。	事業を取り巻く環境変化	出生後、育児に対する不安を持っている親が増えている。
--------	--	-------------	----------------------------

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

出産後間もない養育者が、育児ストレス、産後うつ病、育児ノイローゼ等の問題によって、子育てに対する不安や孤立感を抱えることから、これらを取り除くことで、虐待防止等、児童の心身の健全な発達につながるため。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

子育てに対する不安や孤立感を出産後間もない養育者から取り除くことで、子育て環境の充実に貢献するため。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

訪問により、子育てに関する情報を提供し、必要な支援を調整することができた。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

訪問により、子育てに対する不安や孤立感を取り除くことで、虐待防止等、児童の心身の健全な発達につながる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

人件費・事務費を考慮すると委託料の削減は困難であるが、次世代育成の交付金対象とすることで財源の確保が可能。